

のこと。その仮説が真であり得るかどうかは、その正否が一回限りの現象ではなく何回でも再現できるものであるかどうかによる。

関連 再現性 特定の現象や実験が、同じ条件のもとであれば同一の結果を与えるような性質を持つこと。

カタルシス わだかまりや苦悩が、あるきっかけで解消されること。抑圧された感情が、言葉や行動で表すことによりって解放されること。悲劇を見たりすることで、自己の感情が浄化されること。

価値 値打ち。価値は人間との関わりの中で生まれ、人間にとって有益であるかが基準となる。したがって、文化や時代、個人の考え方によって異なる。

カテゴリー 事柄の性質を分類するための基本的な枠組み。範疇。範囲。部門。

ガバナンス 企業経営を管理・監督する仕組み。コーポレート・ガバナンス。統治。

貨幣 価値の尺度、交換の媒介、価値の蓄蔵の機能を持ったもの。貨幣の素材の価値は額面と一致しない場合も多く、それを使用する社会のメンバーが、そのものに価値があると認めていることが価値の裏付けとなる。

神 世界の根拠となるもの。世界を解釈する価値観を具象化したもの。ヨーロッパ近代は絶対者である神からの解放によって始まった。ニーチェはこの状況を「神は死んだ」と述べた。神は唯一絶対とする一神教と、多くのものに宿るとする多神教とがある。

関連 一神教 唯一の神のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

関連 多神教 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドゥー教など。

関連 アニミズム ある現象の中に靈魂を認め崇拝すること。

環境 人間を中心とする生物・生態系を取り巻く周囲の世界。環境とのかかわりの中で人間の生き方を問うことを環境倫理という。環境倫理は、生態系と未来世代の権利を認めるため、人間中心主義や進歩主義と対立する。

↓気候変動

還元主義 複雑な事象を、それを構成する根本的な要素に立ち戻って解釈する考え方。物事の複雑性を無視して単純化するような、要素全体を総合する視点を欠いた科学的立場をさして、批判的な意味で使われる場合もある。

↓複雑系

監視 権力を持つ組織が個人を常に見張ること。中央に高い塔を置き、その周囲を取り巻くように監房を配置した刑務所の形式を「パノプティコン」というが、フーコーはこの原理が権力技術として近代社会全域に応用されていると指摘した。現代において、人々は物理的な方法だけではなく、データや情報によっても監視されるようになりつつある。

間主観性 複数の主観の中で共通して成り立っている様子。現象学においては、自分と他者は同じ世界を経験しているに違いないという私の確信をさす語。オーストリアの哲学者フッサールが用いた。

感性 外界の刺激を五感で受け止める能力。

対 理性 合理的に判断し、行動する能力。知。個人は理性によって統御されるべきとするのが近代の考え方。

観念 頭の中にある、物事に対する意識やイメージ。物事をどのように捉えるかという内容。「観念的」という場合、理屈だけで現実離れしている様子をさすことが多い。

機械論的自然観 自然は精神を持たない単なる物質で、一定の因果関係によって動くとする考え方。ここから**近代科学**にも見られる、**自然**を操作し**支配**することができるという態度が生まれた。

↓物心二元論

記号 意味を持つもの。しるし。ある形にある決まった**コード**をあてはめると意味が生じる。たとえば、「+」に「数学」という**コード**を適用すると「加える」という意味が発生する。同じ**記号**でも**コード**が変わると意味が変わる。**コード**のはたらきで意味を生じるものはすべて**記号**と見なすことができる。制服が権威を表す**記号**になるなど、**文化的現象**の多くは**記号**として捉えることができる。

関連コード 何かを運用する際のきまり。規則、慣例、符号。「法典」を意味する言葉に由来するとも言われ、「ドレスコード」などのように「規約」や「行動規範」といった意味でも用いられる。**コミュニケーション**においては、発信者と受信者の**コード**の共有が前提となっており、同じ言葉でも**コード**が異なると意味するものが異なる。転じて、コンピューターが実行すべきデータや命令を表現したものの**コード**と呼ばれる。

気候変動 気温や気象パターンの長期的な変化のこと。環境問題においては地球温暖化とその影響をさすことが多い。

疑似科学 科学的だと主張されている、あるいは**科学**のように見えるにもかかわらず

わらず、実際には**科学**的方法とは相容れない性質を持つ言明、信念、行為のこと。似非科学、偽科学。

技術 **科学**的な成果を人間の生活に役立たせる技。

↓テクノロジー

帰属意識 ある特定の集団の一員であるという意識。もとは精神分析学の用語であるが、社会学では、ある集団の社会的役割を内面化し、それを自分のものとして達成するために努力すること、それを通して自分をその集団の成員と考えることをさす。

↓ナショナリズム

帰納 個別的な事象から**普遍的な原理**を導き出すこと。

対演繹 えんえき **普遍的な原理**から個別的な原理を導くこと。「人は必ず死ぬ（大前提）」↓「ソクラテスは人である（小前提）」↓「だからソクラテスは必ず死ぬ（結論）」と結論を導き出す方法を三段論法という。

規範 行動や判断の基準となるもの。指示や価値判断を示す**命題**からなる。法規範や**社会規範**、道徳や**倫理**など。

義務 理性、道徳・倫理、宗教、法制度（法令・契約など）、慣習などを根拠に「従うべき」とされること。義務に反した場合には、精神的、物理的、社会的な制裁が課されることもある。

逆説 **パラドックス** ①一見**真理**に反するように見えながらよく考えると**真理**を言い表しているような表現。ことわざには、「負けるが勝ち」「急がば回れ」など**逆説**的な表現が多い。②一見自明で正しいように見えながら実は矛盾をはらむ**命題**。「クレタ人は嘘つきである」とクレタ人は言った」という**命題**が有名。③事実と反する結論であるにもかかわらず、その説に反発する

正当な論拠を示したいもの。古代ギリシアのゼノンが提出した「飛ぶ矢は飛ばない」「アキレウスはカメに追いつけない」などが有名。

客体 主体の認識や行動の対象。「客体化」は、物事を客観的に見ること。

対 主体 自ら物事を認識したり、行動したりするもの。

客観 主観を超えた普遍的な認識。当事者としてではなく、第三者の立場から見ること。

対 主観 主体が捉えた客体のありよう。ある個人のものの見方。

キャラ 「キャラクター」の略。ただし、「キャラクター」は持続的な性格とそれを支える環境を想起させるが、「キャラ」はその存在自体が独立している印象を与え、ある集団における振る舞い方の類型的な役割（「○○キャラ」など）をさす用語である。近年、素の自分ではなく、特定のキャラを演じるという行動様式が見られる。キャラを演じることで集団内のコミュニケーションが円滑化される反面、人間関係が表層的になるとの指摘もある。

↓アイデンティティ〈自己同一性〉

共時的 スイスの言語学者ソシュールの用語。ある現象を一定時期における静止現象と捉え、その構造を体系的に記述しようとする姿勢。

関連 通時的 言語学者ソシュールの用語。関連する複数の現象や体系を、時間の流れに沿って記述しようとする姿勢。

共通語 ①ある地域や集団間で広く通じる言語。ヨーロッパにおけるフラン語など。②一つの国の中で、地域・階層の違いを超えて互いに伝えることが可能な言語。日本では東京語がこれにあたる。

関連 標準語 公用文や教育、放送などで用いる規範的な言語。明治政府が東京の山の手地区で使われていた言語を基に作った。

関連 方言 共通語とは異なり、特定の地域で使われている言語。

共同体 〈コミュニティ〉 村落や家族など、地縁や血縁によって自然に結びついた人々の集合。近代以降は、人々が自律的・流動的になったため、個人という意識が生まれた。

関連 社会 生きるために関わり合う二人以上の人間が作るもの。

虚構 ①つくりごと。近代的な制度なども虚構として相対化する場合がある。②文学などにおいて、想像力によって現実の事柄のように真実味を持たせて書くこと。フィクション。

虚無主義

↓ニヒリズム〈虚無主義〉

禁忌

↓タブー〈禁忌〉

近代 〈モダン〉 科学技術 〈テクノロジー〉 の発達で工業化が進み、社会全体が豊かになった時代。一般的に、西洋では十五世紀から十六世紀以降を、日本では明治維新以降を近代と呼ぶ。近代を特徴づける思想傾向として、個人主義、合理主義、自由主義などがあげられ、科学技術の進歩と結びついた産業資本主義の発達を近代化の起動力とみなす考えが有力である。その意味で産業革命が近代の画期であり、背景にはヨーロッパ先進諸国による非ヨーロッパ諸地域の植民地化があった。産業革命のもたらした豊かさは、個人という意識を生み出し、近代的自我を育んだ。世界は豊かさを求めて一元化する方向に動いている。

関連 ポストモダン 「ポスト」は次、後という意味。もとは、機能主義

と合理主義に基づく近代建築（モダニズム）を脱しようとする新たな建築方式をさす。そこから派生して、近代的な**社会・制度・思想**等を批判し、消費社会や情報社会と呼ばれる現代に対応した知のあり方を模索する思想的・文化的な傾向をさすようになった。リオタールは、近代には**社会や自由**は発展・拡大していくといった「**大きな物語**」が信じられていたが、現代では情報化が進み、価値観が多様化したため、一方向的な右肩上がりの「**大きな物語**」は終焉（しゆげん）したとした。また、ドゥルーズ、デリダ、フーコーなどの活動した「**ポスト構造主義**」のことを「**ポストモダン**」ということもある。

↓グローバル化（グローバルイゼーション）

↓大きな物語

↓ポストコロナリズム

具体 それぞれに実体のある明確なあり方。

対 **抽象** 物事の性質などの共通性を捉えること。

クレオール 言語・文化などが混交する現象。もともとは植民地で生まれたスペイン人やフランス人をさした。交易などのためヨーロッパ言語と非ヨーロッパ言語が混じってできた**言語**が母語化したものを「クレオール言語」という。

グローバル化（グローバルイゼーション）

物事が世界規模に拡大すること。世界化。近代がもたらした豊かさを求めて世界中の価値観が同一化されること。こうした動きによって、逆に**国家・民族・宗教意識**を高め、**ナショナリズム**に結びつく場合もある。経済的には**資本主義**が世界に広がることで世界の最貧困層を減少させた反面、国家間の格差を広げたとと言われる。また、かつて存在した国境を越えた**文化**

の紐帯（おんたい）をよみがえらせる契機になっているという見方もある。

クローン 広義には、同一の起源を持ち、均一な遺伝情報を持つ個体の集団。狭義には特定の遺伝子から作られたコピーのこと。ネコ、ウマ、ヤギ、ウサギ、ブタ、ラット、ラクダ、サルなど多くの哺乳動物で人工的な**クローン**作成の成功例が報告されているが、ヒトの**クローン**作成は禁止している国がほとんどであり、**倫理的**な見地から**クローン技術**を批判する声もある。他方、**クローン技術**は移植のための臓器複製の研究にも利用されている。

ケ 日常なこと。普段の生活。

対 **ハレ** 儀礼や祭、年中行事などの非日常なこと。

形而下（けいしげ） 形に表れていて感覚で存在を知ることができる**物質**的なもの。

対 **形而上（けいじげ）** はつきりした形がなく、感覚では認知できない**観念**的なもの。本質。現実から離れて**抽象**的になっている様子を**揶揄**的に「**形而上的**」ということがある。

形而上（けいじげ） はつきりした形がなく、感覚では認知できない**観念**的なもの。本質。現実から離れて**抽象**的になっている様子を**揶揄**的に「**形而上的**」ということがある。

対 **形而下（けいしげ）** 形に表れていて感覚で存在を知ることができる**物質**的なもの。

芸術（げいゆつ） 世界をどう捉えるかを表現するもの。人類の知の一つ。**科学**が**合理的**なものを相手にしたのに対して、**芸術**は**合理的**に説明できない**人間の**あり方について表現しようとした。絵画・彫刻・建築などの空間芸術、音楽・文学などの時間芸術、演劇・映画・舞踊・オペラなどの総合芸術などがある。

啓蒙思想 近代の合理的精神に基づいて、迷信・偏見・宗教的權威などを不合理なものとして取り払い、**理性の自立**を促す思想。英語の「the Enlightenment」をひょうめ、ヨーロッパの多くの言語で「光で照らすこと」という意味の語があてられている。啓蒙主義。

対 **ロマン主義** 近代合理主義に対して人間の個性と感情を重視する芸術上の立場。十八世紀から十九世紀のヨーロッパで、**啓蒙思想**に対抗して起こった。

穢れ 死や出産などの際に生じるとされる不浄のこと。特定の人・物・場所などを**穢れ**として忌避する観念は、広範な**社会**で見られる。**穢れ**を払うには禊が必要となる。

ゲノム 「gene（遺伝子）」と集合を表す「ome」を組み合わせた造語。生物の持つ遺伝子（遺伝情報）の全体をさす。ヒトゲノムの全塩基配列が二〇〇三年に解析された。この解析により医学の飛躍的な発展が期待されている。

言語 混沌とした世界を、**差異**に基づき**分節**化したもの。世界をどのように認識しているかの表れ。**分節**のしかたは各言語によって異なるため、どの**言語**を用いるかによって世界観も限定される。

現象 感覚で捉えられるもの（形而下）。**現象**は個人の**主観**によっていると言える。フッサールの唱えた現象学は、学問の根拠をこうした個人の**主観**に置き、**精神**や**文化**の本質を実証しようとする哲学的方法をいう。

言説 **ディスコース** 特定の文化的な関係を背景にして述べられる**言語**表現。「書かれたもの」「言われたこと」といった**言語**表現の総体。

原理主義 理念的な原理（物事の根本的な法則）を重視する姿勢。宗教でいうと、聖典などをことさら重視し、世俗的な解釈を否定する姿勢をさす。

権力 他人を従わせる力。強制する力。日常にはさまざまな**権力**構造が潜んでおり、学校や病院なども**権力**装置だと解釈できる。

関連 **監視** **権力**を持つ組織が個人を常に見張ること。中央に高い塔を置き、その周囲を取り巻くように監房を配置した刑務所の形式を「パノプティコン」というが、フーコーはこの原理が**権力**技術として**近代社会**全域に応用されていると指摘した。現代において、人々は物理的な方法だけではなく、データや情報によっても**監視**されるようになりつつある。

公害 人為的な原因から、地域住民や公共一般がこうむる被害や、自然環境の破壊。大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・悪臭・振動・地盤沈下などをさす。

公正↓ **フェア**（公正）

構造主義 現象から構造（現象に潜在するしくみ）を抽出し、その**現象**を理解しようとする考え方。二十世紀の初めに言語学者のソシュールらが提唱し、この方法論が他の分野にも適用され、民族学のレヴィストロース、精神分析学のラカン、哲学のアルチュセールやフーコー、バルトなどが成果をあげた。一九六〇年代の主要思潮であり、西洋文明中心主義のものの見方を**相対**化させるきっかけとなった。

構築主義 ある事柄を、**社会的**に作られたものと考え変更可能だと見なす立場。これに対して、ある事柄に対して、変更不可能のものだと見なす立場を**本質主義**という。たとえば「男女

差」について、「社会的に構築されたもの」と考えるのは**構築主義**、「生得的で変更できないもの」と考えるのは**本質主義**にあたる。

対 本質主義 個別の事物には変化しない本質が必ずあり、それによって内実を規定されていると考えること。

公用語 ある集団・共同体において、公の場で用いることが公式に規定されている言語。

合理 理にならっていること。論理的に説明できるようにすることを「合理化」という。近代は合理的であることが重要視された時代であった。

功利主義 社会における効用の最大化を目指す考え方。効用を人々の幸福と考えれば、多くの個人の幸福を最大化する考え方とも言い換えられる。イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサムはこれを「最大多数の最大幸福」と表現した。

コード 何かを運用する際のきまり。規則、慣例、符号。「法典」を意味する言葉に由来するとも言われ、「ドレスコード」のように「規約」や「行動規範」といった意味でも用いられる。**コミュニケーション**においては、発信者と受信者のコードの共有が前提となっており、同じ言葉でもコードが異なると意味するものが異なる。転じて、コンピュータが実行すべきデータや命令を表現したのも**コード**と呼ばれる。

国民国家 ある民族によって構成される国家。言語や文化を共有し、国家を構成する人々を「国民」とするが、これは、**国民国家**の成立に伴って見いだされた制度であるとも言える。

↓ **ナショナリズム**

互酬性 贈与とそれへの返礼義務によって築かれる関係性。代表的な例として北米先住民が行っていたポトラッチがあげられる。

個人主義 社会の利益よりも個人（国家や社会などの**共同体**を構成する個々の人間）の意義を優先させる考え方。

関連 全体主義 個人は全体を構成する部分であるとし、個人の活動は全体の成長のために行われなければならないとする考え方。国家・民族を優先し、個人の権利は無視される。第一次世界大戦後のドイツのナチズム、イタリアのファシズムなどがその典型。

関連 集団主義 個人は他者との関係性において意味を持つ存在であるとし、**自己**の所属する集団をそれ以外の集団よりも重視する考え方。日本的経営の特質の一つとされる。

コスモス〈秩序〉 規則や秩序がある整然とした状態。

対 カオス **混沌・渾沌** **「コスモス〈秩序〉」**に対立する語で、物事が混じり合って区別がつかない状態。無秩序な状態から何かが誕生するという捉え方をする場合、肯定的に捉えられる。

コスモロジー 世界を秩序あるものとして哲学的に考察すること。宇宙論。

個性 個人や個体に特有の性質や特徴のこと。

言霊 言葉が持つとされる霊力。古代の日本では、声に出した言葉が現実世界に何らかの影響を与える信じられ、良い言葉を発すると良いことが起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるとされた。

コミュニケーション 意思や感情、情報などを伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介とする。その際、発

信者と受信者がコードを共有することが理想である。コードが共有されない、両者の間に意味のずれが生じるが、一般的にはコードは完全には一致しない場合が多いとされる。

関連 メディア ①コミュニケーション

ンの際、媒介となるもの。②情報の記録・伝達・保管などに用いられる物や装置。媒体。

関連 マスメディア 不特定多数の

人々に情報を伝えるメディア。新聞・テレビなどが代表的なもの。

関連 メディア・リテラシー 情報を

理解し、活用する力。その情報がどんな意図で作られ、送り出されているかを自分で判断する能力。

関連 ジャーナリズム マスメディア

を通じて行う報道・解説・批判等の活動。また、その機関。

↓記号

コミュニティアニズム〈共同体主義〉

二十世紀後半のアメリカを中心に発展してきた、共同体の価値を重んじる政治思想。自由主義に対抗する思想であるが、自由主義を完全に否定するものではない。

関連 リベラリズム 自己と他者双方

の自由を尊重する社会的公正を指向する立場。政府による制限や介入をなくすことを求めるリバタリアニズム、ネオリベラリズムとは異なり、政府などによる積極的な介入も必要であると主張する。

関連 リバタリアニズム 個人的な自

由と経済的な自由の双方を重視する立場。経済的な自由を重視するネオリベラリズムと似ているが、リバタリアニズムでは個人的な自由をも重んじる。他者の身体や正当に所有された物質的、私的財産を侵害しない限り、すべての行動は自由であるとする。リベラリズムは、貧困者や弱者の救済として国などが富の再分配を行うことを肯定するが、リバタリアニズムはこれらを

認めない。このような立場をとる人を「リバタリアン」という。

コミュニティー

↓共同体〈コミュニティー〉

コンセンサス 意見の一致。合意。多様な利害関係を持つ人々の意見を一致させること。

コンテキスト 前後関係。文脈。

混沌

↓カオス〈混沌・渾沌〉

コンプライアンス 企業が法令などを遵守すること。法令遵守。

コンプレックス 衝動・欲求・観念・記憶等の心理的構成要素が無意識に複雑に絡み合って形成された観念の複合体をいう。心理学用語としては劣等感以外の感情の複合も含むが、日本語では「コンプレックス」と言うと暗黙に「劣等コンプレックス」のことをさす傾向がある。

さ

差異 違い。世界をどう分けていくかという問題（**分節化**）は、どのように**差異**を見いだすかという問題であるとも言える。

再帰性 社会学では、**主体**が自らの行為に関する情報を、その行為を検討・評価し直すために用いることをさす。イギリスの社会学者ギデンスが用いた概念。

再現性 特定の現象や実験が、同じ条件のもとであれば同一の結果を与えるような性質を持つこと。

↓ **科学**

サステイナブル

↓ **持続可能**（**サステイナブル**）

さび 「わび」同様、日本的な美意識の一つ。古びたものに感じる静かで落ち着いた趣。

↓ **わび**

サブカルチャー **社会**の正統的、伝統的な文化に対して、その**社会**に属する一部の集団に支持される娯楽や趣味文化。狭義には、特撮・アニメ・アイドルなどのオタク的な趣味をさす。

死 本来、**死**とは心肺が停止する「身体の死」をさしていた。しかし、脳の死こそが人間の死であるという**脳死**の考え方が生まれ、**臓器移植**が可能となった。

↓ **生命倫理**

思惟 根本的な問題を深く考察すること。

恣意的 思うとおりにするさま。

ジェンダー 文化的、社会的に形成された男女の違い。生物学的な性差であるセックスに対する概念。男は青色、女

は赤色というように、社会の中でこうあるべきという作られた**制度**をさす。

ジェンダーによって、期待されたり、許容されたり、評価されたりする事柄に差があるという現実があり、両性間に差別や不平等が存在するとされる。

関連 **フェミニズム** 性差別を廃止

し、抑えられていた女性の権利を拡張しようとする思想。**ジェンダー**などの視点から家父長制的な前提の問い直しが求められている。

↓ **性的少数者**

自我 意識したり行為したりする**主体**としての自分自身。

関連 **他我** **他者**が持つ自分という意識。

時間 時。近代に入り**時間**（および空間）は**人間**にとって外在的で**客観的**なものだと考えられるようになった。

次元 元は、一般的な空間の広がりを表す語。直線を一次元、平面を二次元、空間を三次元と呼ぶことから、レベルや立場を表すようになった。転じて、マンガやアニメーション、ゲームなどを「二次元」、それらを原作としたミュージカルや演劇などの舞台芸術を「二・五次元」と呼ぶことがある。

関連 **位相** ①数学において、集合に

含まれる要素どうしのつながりを示す概念。トポロジー。②周期的に繰り返す現象の中の、ある特定の局面。③社会的な属性や、コミュニケーション方法などの違いから、言葉に違いが生じる現象。④転じて、**社会**におけるレベル。立場。そこから見えるありさま。

自己 自分。己。

対 **他者** 自分以外の存在。

自己同一性

↓ **アイデンティティ**（**自己同一性**）

自己目的化 目的達成のための手段や行動自体が、いつの間にか目的になってしまうこと。

システム〈体系〉 秩序を持った一つのまとまり。「系」「制度」「方式」「機構」「組織」などと表現される場合もある。

自然 この世界にもともと存在するもの。近代に入り、物心二元論によって、自然を人間の支配するべき対象として、人間と切り離して考えるようになった。

〈関連〉機械論的自然観 自然は精神を持たない単なる物質で、一定の因果関係によって動くとする考え方。ここから近代科学にも見られる、自然を操作し支配することができるといふ態度が生まれた。

持続可能〈サステナブル〉 経済・政治・文化などが将来にわたって適切に維持され発展するために、自然環境と良好な関係を持つて共生している状態。「サステイナビリティ」は持続可能性の意味。

持続可能な開発目標〈SDGs〉
Sustainable Development Goals。二〇一五年に国連総会で採択された持続可能な開発のための十七の国際目標と、その下にある百六十九の達成基準と二百三十二の指標からなる。

実在 認識主体から独立して客観的に存在するもの。

実存 自己とは何かを問い続けながら存在する、人間の主体的なあり方。実存の内実を探究する思想を実存主義という。

支配 ある個人もしくは集団が、個人・地域・国家などを権力下に置くこと。

自分探し 自分の現状に満足できず、どこかに「本当の自分」という存在があると求めて探し求めること。

↓ **アイデンティティ〈自己同一性〉**

資本主義 私有財産制度と経済活動の自由を特質とする社会制度。独占や寡占、所得格差などの弊害があるため、財政・金融政策による是正が必要とされるが、政府がどの程度介入すべきかについてはさまざまな議論がある。

〈関連〉社会主義 資本主義における生産手段の私有と私的管理、商品の自由競争という原則を批判して生まれた、生産手段を社会全体で共有し、経済を計画的にコントロールすることで平等な社会を実現しようとする社会体制。

↓ **リベタリアニズム**

↓ **リベラリズム**

シミュラクル 原義は、現実を何かに置き換えた「模擬、模造品、虚像」の意味。フランスの哲学者のジャン・ボードリヤールらが「本質を記号化したコピー」と独特の定義をし、その意味で用いられることが多い。オリジナルとコピーの境界が曖昧になる現代社会における状況を背景とした概念。

↓ **オリジナル**

シミュレーション あるシステムの挙動を、それとほぼ同じ法則に支配される他のシステムや計算によって模擬すること。模擬実験。気象などのコントロール不可能な現象の考察や、一回あたりに大きなコストがかかる実験の代替などに用いられる。

市民 近代社会では、市民革命を支え、権力者を倒した産業資本家などの中間層の人々をさす。現在でも、社会に主体的に参加する人々という意味で使われる。

〈関連〉大衆 社会の大多数を占める大勢の人々。「市民」という語が自律的

な存在という意味で使われるのに対して、「大衆」という語は**メディア**などに影響されやすく、他者と同調しがちな人々という意味で使われることが多い。

ジャーナリズム マスメディアを通じて行う報道・解説・批判等の活動。また、その機関。

↓ **コミュニケーション**

↓ **マスメディア**

社会 生きるために関わり合う二人以上の人間が作るもの。

↓ **共同体** 〈「コミュニティ」〉

社会関係資本 〈「ソーシャルキャピタル」〉

人々が持つ信頼関係や人間関係を、**社会**の効率性に資する資源として捉えたもの。

社会主義 **資本主義**における生産手段の私有と私的管理、商品の**自由競争**という原則を批判して生まれた、生産手段を**社会**全体で共有し、経済を計画的にコントロールすることで**平等な社会**を実現しようとする社会体制。

対 **資本主義** 私有財産制度と経済活動の自由を特質とする**社会制度**。独占や寡占、所得格差などの弊害があるため、財政・金融政策による是正が必要とされるが、政府がどの程度介入すべきかについてはさまざまな議論がある。

捨象 物事の表象から特徴を分けて取り出す**抽象**を行う際に、余分な性質や特徴を切り捨てること。

自由 他からの強制・拘束・支配などを受けず、自らの意思に従っている状態。**自由**の下で行った行為は、それに伴う責任と合わせて語られることが多い。

↓ **リベラリズム**

周縁 中央から離れた縁^{ふち}。大きな力を持つ国家や文化（「中心」）に対して、その周辺をさす。**近代**はヨーロッパ文明中心主義であり、ヨーロッパは**周縁**各地に対して**権力**を持った。周辺も中心に憧れを抱き、**近代化**を進めた。

集団主義 個人は他者との関係性において意味を持つ存在であるとし、**自己**の所属する集団をそれ以外の集団よりも重視する考え方。日本的経営の特質の一つとされる。

対 **個人主義** **社会**の利益よりも個人（国家や**社会**などの**共同体**を構成する個々の人間）の意義を優先させる考え方。

主観 主体が捉えた**客体**のありよう。ある個人のものの見方。

対 **客観** **主観**を超えた**普遍的な認識**。当事者としてではなく、第三者の立場から見ること。

主体 自ら物事を認識したり、行動したりするもの。

対 **客体** **主体**の認識や行動の対象。「客体化」は、物事を**客観的**に見ること。

受動的 他からの考えや行動を受け入れること。

対 **能動的** 自ら進んで考え行動すること。

シュルレアリスム 〈**超現実主義**〉 不合理で非現実的な世界を描くことで人間の解放を目指した**芸術運動**。

↓ **リアリズム**

↓ **無意識**

循環型社会 有限な資源の効率的な活用やリサイクルなどによって、資源利用の**持続可能な循環**を維持していく**社会**のあり方。

止揚

↓アウフヘーベン〈止揚〉

象徴 抽象的な内容を具体的な事物によって表すこと。シンボル。

情報 事象の内容や知らせ。判断に役立つ資料や知識。アナログな現実の世界をデジタルな信号に換えて、コンピュータが高速・大量に処理することで現代社会は成り立っていると言える。

↓デジタル化

情報通信技術〈ICT〉 Information and Communications Technologyの略。情報通信技術。パソコン、スマートフォンなどの情報機器やそれを支えるシステム、それらを使ってサービスを提供する技術などを広くさす語。

自律 自分の意志で行動すること。自分で自分をコントロールすること。また、ロボットなどが人間の制御によらず、自身で周囲の環境を判断して行動すること。

対他律 自らの意志ではなく、他からの命令、支配に従うこと。

自立 もともと、他からの支配や助力を受けずに独り立ちすることをいった。しかし、人間はほぼ必ず周囲の人々との関係性を築きながら生きているため、現在では他の力を借りながら互いに助け合って生きることも含めて**自立**と言われるようになってきている。

ジレンマ 相反する二つの事柄の板挟みになること。

人為 人間の力で何かを行うこと。**自然** に人間が手を加えること。

進化論 現存する多様な生物種は、もとは単一の原始生物であり、それが環境適応や自然淘汰を繰り返して発展的に変化したという考え方。ダーウィンに

よる生物学での知見であったが、文化的な事象にも援用される。

人工知能〈AI〉 記憶・推論・判断・学習などの知的行動を人間の代わりにコンピュータに行わせる技術。一九九七年、チェス用に開発されたAI『ディープ・ブルー』が当時の世界チャンピオンを破り、その後、家電製品・情報通信・金融工学・医療・軍事などの分野で実用化が進んでいる。二〇一〇年代以降、**ディープラーニング**〈深層学習〉の飛躍的な発達や、**ビッグデータ**の集積などにより、**人工知能ブーム**が起こった。**AI**が人間の知能を超えて文明の主役になる転換点（**シンギュラリティ**）が、今世紀半ばには起るとする学者もいる。

関連 **生成人工知能〈生成AI〉** 画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどを生成する**人工知能**のこと。大規模なデータを学習し、その特徴を模した絵や文章を生成する。ジェネレーティブAI。ジェネラティブAI。

↓シンギュラリティ

↓ビッグデータ

↓ディープラーニング

シンギュラリティ 技術的特異点。科学技術が急速に発展することで人間の生活も決定的に変化する未来の時点。**AI**が人間の知能を超えて**文明**の主役になる転換点。

↓人工知能〈AI〉

新自由主義

↓ネオリベリズム〈新自由主義〉

心象 心の中に描き出される像。イメージ。心象風景

身体 デカルトの物心二元論によって、長い間、**身体**は**精神**と切り離して捉えられ、単なる物質と見なされてきた。しかし、二十世紀以降、**身体**と**精神**は

分離できないという考えから、**身体**の側から人間存在を捉え直そうとする「身体論」が唱えられるようになった。

ジレンマ 相互に矛盾する概念を統合すること。

↓**弁証法**

進歩 望ましい方向へ物事や**文化**、**文明**などが進んでいくこと。

真理 変わることのない、正しい物事の道理。

神話 世界の成り立ちを語る物語。派生的に「長期にわたって正しいとされてきた事柄」の意味で、「安全神話」「不敗神話」などの形で使われる。

ステルスマーケティング 消費者に広告であると明記せずに隠して行う宣伝行為や、非営利の好評価を事業者が第三者を装って行うなどして消費者を欺く行為。略語である「ステマ」の形で使われることも多い。

ステレオタイプ 型にはまった画一的なイメージ。ステロタイプ。紋切型。

スマート 賢い、鋭い、活発、洒落などを意味する言葉。「高性能」を表す語として、スマートフォン、スマートグリッド、スマートホームなど、さまざまな電子機器の名称にも使われている。日本語では、体つきや物の形がすらりとしている、というような意味で使われることがあるが、英語には本来そのような意味はない。

正義 倫理、法律、宗教などに基づく正しさに関する**概念**。アメリカの哲学者ロールズは、利益の分配に当たってもっとも妥当で適切な分配の仕方を導く社会的取り決めが**社会正義**の諸原理になるとした。これに対してアメリカの哲学者マイケル・サンデルなどコミュニ

ニタリアンの立場から、ある**コミュニティ**の中に共通する善き生き方と切り離れた形で正義を考えることはできないという反論がなされた。また、アメリカの哲学者ノージックなど**リベタリアニズム**の立場からは、個人の能力の違いを制度によって矯正することは個人の権利を侵害するとして、**平等**主義的な再分配の原理に批判が加えられた。

精神 心、意識、理念などをさす言葉。デカルトの**物心二元論**では、**人間は身体と精神**からなると考える。

生成人工知能〈**生成AI**〉 画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどを生成する**人工知能**のこと。大規模なデータを学習し、その特徴を模した絵や文章を生成する。ジェネレーティブAI。ジェネラティブAI。

↓**人工知能**〈**AI**〉

生態系 生物とそれを取り巻く環境を全体的に捉えたもの。**生態系**についての学問を「生態学〈**エコロジー**〉」という。デカルトは**物心二元論**によって、**自然と人間**を切り離して考える**近代的**思考をもたらしたが、生態学はこうした**自然と人間**の関係を見つめ直すものでもある。

静的 スタティック。事象を変化しないものとして捉えること。または、ある一時点のみを切り取って捉えること。
対動的 ダイナミック。事象を**時間**に沿って変化するものとして捉えること。

性的少数者 「性」のあり方が多数派と異なる人のこと。セクシュアルマイノリティ。LGBTはレズビアン〈lesbian〉、ゲイ〈gay〉、バイセクシュアル〈bisexual〉、トランスジェンダー〈transgender〉といった**性的**

少数者の総称。性的自認が定まっていない人〈Questioning〉を加えたLGB T Qという呼称もある。

制度 社会的なしくみ。「法律」のように成文化されたもの以外に、「道徳」「慣習」「言葉」「貨幣」なども**制度**と考えることができる。

生命の質〈QOL〉 Quality of Life。生活の質。身体、心理、社会参加などの観点から包括的に評価された生活の質。医療や介護などの分野において、生命の尊厳と自分らしさを求める考え方から生まれた。

生命倫理 生と死に医療はどう関わるべきかという問題。**脳死**、**臓器移植**、人工妊娠中絶、安楽死、尊厳死、クローンなどの問題がある。

関連 **死** 本来、死とは心肺が停止する「身体の死」をさしていた。しかし、脳の死こそが人間の死であるという**脳死**の考え方が生まれ、**臓器移植**が可能となった。

関連 **臓器移植** 臓器が正常にはたらかなくなった場合に、他の正常な臓器を移植することで機能を回復させる治療法。

関連 **脳死** 脳のすべての機能が回復不能と認められた状態。

セーフティネット 予想される危険や損害に対する社会的な救済策のこと。社会保障の一種で、**リスク**を軽減し、**社会**のメンバーに安全や安心を提供する。サーカスの空中ブランコの下に張られた安全網が語源とされる。

世間 世の中。個人の力の及ばないずっと以前から存在するもの、という日本的な社会の捉え方。個人が前提となる西欧近代主義でいう「**社会**」とは異なる。

世俗化 **社会**や**文化**が、宗教的権威などの聖なる**支配**から**市民**に解放されること。

絶対 他に比べるべきものがないこと。
対 **相対** 他との比較によって成り立つこと。他との比較を通して、問い直したり、疑ったりすることを「**相対化**」という。

世論 世間一般の意見。多くの人が共有している意見。

全体主義 個人は全体を構成する部分であるとし、個人の活動は全体の成長のために行われなければならないとする考え方。国家・民族を優先し、個人の権利は無視される。第一次世界大戦後のドイツのナチズム、イタリアのファシズムなどがその典型。

↓ **個人主義**

臓器移植 臓器が正常にはたらかなくなった場合に、他の正常な臓器を移植することで機能を回復させる治療法。

↓ **生命倫理**

相対 他との比較によって成り立つこと。他との比較を通して、問い直したり、疑ったりすることを「**相対化**」という。

対 **絶対** 他に比べるべきものがないこと。

ソーシャルキャピタル

↓ **社会関係資本** 〈**ソーシャルキャピタル**〉

ソーシャルメディア 〈**ソーシャルネットワーキングサービス・SNS**〉 ユーザーの間に**社会的**なネットワークを構築し、維持・促進するさまざまな機能を提供する会員制のオンラインサービス。典型的にはプロフィール・メッセージ・タイムライン・ブログ・アンケートなどの機能を有する。

疎外 人間が制度に支配され、本来のあり方を失うこと。個性や人格が社会関係の中に埋没して主体性を失うことで、他人や他の事柄に対してだけでなく、自分自身に対しても疎遠な感じにとらわれてしまう状態を「自己疎外」という。

た

体系

↓ システム (体系)

大衆 社会の大多数を占める大勢の人々。「市民」という語が自律的な存在という意味で使われるのに対して、「大衆」という語はメディアなどに影響されやすく、他者と同調しがちな人々という意味で使われることが多い。

↓ 市民

ダイバーシティ

↓ 多様性

他我 他者が持つ自分という意識。

関連 自我

意識したり行為したりする主体としての自分自身。

↓ 自我

多義的 複数の意味を持っていること。

複数の意味に解釈できること。

↓ 一義的

多元論 物事が一つの原理ではなく、多様な原理によって独立して成立していると考ええること。

↓ 一元論

他者 自分以外の存在。

対 自己 自分。己。

多神教 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドウ教など。

↓ 神

脱構築 デイコンストラクション

ある対象を解体し、そこにある有用な要素を用いて、別の何かを再構築すること。あるいは、二項対立に隠された矛盾を暴き出すための手法。元はフランスの哲学者ジャック・デリダが創り出した概念。脱構築の考え方に従え

ば、「**脱構築**」という**概念**も常に**脱構築**され続けなくてはならない。

タブー〈禁忌〉

もともとは、個人や**共同体**における行動のありようを規制する広義の**文化的規範**（宗教的に禁止されていることなど）。転じて**社会**において言及することがよくないと思われる事柄。

ダブルバインド

矛盾する二つの命令やメッセージを同時に受けて、板挟みになること。

多様性

ある集団の中に異なる特性を持つものが豊かに存在すること。ダイバーシティ。自然科学には種多様性、遺伝的多様性などの、社会科学には文化多様性、地域多様性などの**概念**がある。一種のものがさまざまに分かれていくことを「多様化」という。

他律

自らの意志ではなく、他からの命令、支配に従うこと。

対

自律 自分の意志で行動すること。

と。自分で自分をコントロールすること。また、**ロボット**などが人間の制御によらず、自身で周囲の**環境**を判断して行動すること。

知

物事を判断したり認識したりすること。

秩序

↓コスモス〈秩序〉

抽象

物事の性質などの共通性を捉えること。

対

具体 それぞれに実体のある明確なあり方。

超越

普通の程度をはるかに越えること。あるものが別次元にあることを表す**概念**。

超現実主義

↓シュルレアリスム〈超現実主義〉

超克 困難を乗り越え、克服すること。

通時的

言語学者ソシュールの用語。関連する複数の**現象**や**体系**を、**時間の流れ**に沿って記述しようとする姿勢。

対

共時的 スイスの言語学者ソシュールの用語。ある**現象**を一定時期における静止現象と捉え、その構造を体系的に記述しようとする姿勢。

通念

一般に共通して認められている考え。

罪の文化

アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトが『菊と刀』で規定した、西欧の**文化**の特徴。西欧人は行為に対する**規範**的規制の源が内なる自己〈良心〉にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

対

恥の文化 他者からの批判や嘲笑を避けることを行動規範とする日本的な**文化**。西欧の**罪の文化**に対して、日本の**文化**の特徴を規定したもの。日本人は行為に対する**規範**的規制の源が自己の外側〈世間〉にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

ディープラーニング

深層学習。人工知

能に、対象の全体像や細部など抽象度の異なるそれぞれの**概念**を、階層構造として関連させて学習させる手法。

ディスクール

↓言説〈ディスクール〉

ディスコンストラクション

↓脱構築〈ディスコンストラクション〉

テーゼ

措定。命題。事実を肯定したり、その内容を明記したりすること。

↓弁証法

テキスト

広義には、何らかの意味を読み解く対象全般をさす。狭義には、文章などの、つながりを持つ文の集合のこと。「テキスト論」とは、読者が作品をどう読むかという視点を取り入れた読解の考え方。文章は一日書かれると、作者自身との連関を断たれた**自律**的なものとなり、多様な読まれ方を許す。こうした考え方を、フランスの哲学者ロラン・バルトは「作者の死」と呼んだ。また、デリダは「言いたいこと」は純粹にそれだけとしてあるのではなく、言葉と不可分に結びついて成り立つと考えた。こうした「テキスト論」は、文章というものに**絶対の真理**（著者が言いたかったこと）を求める姿勢への批判であり、「**形而上学批判**」の一つと見ることができると。

テクノロジー

科学技術。工学的な技術を利用する方法。

デジタル化

連続する数値を離散的な数値に変換すること。**情報**をコンピュータで処理できるように変換すること。

関連情報

事象の内容や知らせ。判断に役立つ資料や知識。アナログな現実の世界をデジタルな信号に換えて、コンピュータが高速・大量に処理することで現代社会は成り立っていると言える。

デモクラシー**↓民主主義 ⇨デモクラシー****テロリズム**

政治的目的を達成するため暴力の行使を認める主義。二十世紀には、政治的要求や体制の打倒を目的とした国家に対する暴力の意味で使われることが多くなった。直接の攻撃対象だけでなく民衆の恐怖心をおおる行為である点で、従来の戦争やゲリラ戦と区別される。軍事的な勝利が見込めない場合にも政治的な目的のために実行される。ハイジャックや爆破などの

手段がとられ、心理的な効果をねらって多くの市民が行き交う公共の場や、経済的・政治的な要地が攻撃の対象とされることが多い。

当為

まさになすべきこと。まさにあるべきこと。ドイツ語Sollen（ゾルン）の訳語。

淘汰

よいものを取り、悪いものを捨てること。自然淘汰は、環境に適したものが生き残るという「**進化論**」の基本概念。

動的

ダイナミック。事象を**時間**に沿って変化するものとして捉えること。

対静的

スタティック。事象を変化しないものとして捉えること。または、ある一時点のみを切り取って捉えること。

特殊

普通と異なっていること。

対普遍

すべてにあてはまること。

ドグマ

宗教における教義。転じて「**独断・偏見的な説や意見**」の意。教条主義。

都市

政治・経済・文化・交通などの地域における中心で、人口が集中している領域。住人は主に第二次・第三次産業に従事している。第一次産業中心で、人口密度の低い村落に対置される。

トボス

ギリシヤ語で「場所」をさす語。何かの特別な意味を付与した「場所」について論じる際に使われる。

トリアージ

災害などで多くの傷病者が発生している状況で、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を決めること。

トレードオフ

何かを得ると、別の何かを失うという状況のこと。たとえばものを買うということは、他のものを購

入る機会を失うという意味でトレードオフであると言える。

な

内発的 内部からの欲求に基づき、おのずとそうなるさま。

対 外発的 他からの刺激や影響によってそうなるさま。

内包 ある概念が適用される事物が持つ共通の性質のこと。

対 外延 ある概念が適用される具体的な事物の範囲のこと。

内面化 社会における価値や規範などを、自分のものとして受け入れること。

ナショナリズム 国民国家に基づいて、

国家や民族を統一しようとする思想。民族主義、国家主義。人が国家に帰属していると感じる感情。また、帰属する対象として国家を最優先させる思想や運動。国家は抽象的な**概念**であり、その構成メンバーなどを直接的にすべて把握することは不可能である。そのような抽象的なものに帰属意識を持つ心性は**近代**以降のものであり、家族や地域**社会**などの集団に帰属意識を持っていた前近代から変化した点である。国家に帰属意識を持たせるうえで学校や軍隊は大きな役割を果たした。また、**ナショナリズム**は、独立や民族解放運動など、多くの**民族**が政治や文化の主体となる契機ともなった。

↓ **グローバル化** (グローバルイゼーション)

ナッジ 人々の行動や選択を、強制によらず望ましい方向へと誘導すること。

二元論 物事を相対立する二つの原理によって説明しようとする考え方。デカルトの**物心二元論**が代表的。

↓ **一元論**

ニヒリズム 〈**虚無主義**〉 既存のあらゆる権威や社会秩序を否定する哲学的立場。

場。

ニユアンス 表現や感情の微妙な意味合い。

二律背反 二つの相反する命題が、同等の合理性や妥当性を持っていること。アンチノミー。

人間 物心二元論により、人間は精神を持つ唯一の存在として自然を支配するもの（主体）となった。「物質的な存在である自然は人間の支配の対象（客体）である」とする考え方を「人間中心主義」という。

認識 物事を意識し、その本質や意義を理解すること。

認知 対象を知覚し、それが何であるかを理論的に判断すること。

ネオリベラリズム〈新自由主義〉 個人の自由や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきたと主張する経済学上の思想。

↓ **リベラリズム**

↓ **リベタリアニズム**

ネガティブ 物事に対して消極的な様子。

対 ポジティブ 物事に対して積極的な様子。

脳死 脳のすべての機能が回復不能と認められた状態。

↓ **生命倫理**

能動的 自ら進んで考え行動すること。
対 受動的 他からの考えや行動を受け入れること。

は

パースペクティブ 遠近法。遠いものを小さく、近いものを大きく描く技法。または、物事を見る視点や立場。

バイアス 偏見や先入観、偏り。

媒体

↓ **メディア**

恥の文化 他者からの批判や嘲笑を避けることを行動規範とする日本的な文化。西欧の**罪の文化**に対して、日本の文化の特徴を規定したもの。日本人は行為に対する**規範**的規制の源が自己の外側〈**世間**〉にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

対 罪の文化 アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトが『菊と刀』で規定した、西欧の**文化**の特徴。西欧人は行為に対する**規範**的規制の源が内なる自己〈**良心**〉にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

パトス 情念。激情的、情熱的な精神。ギリシア語で「**受動的状態**」を意味する語。

↓ **ロソス**

ハラスメント 肉体的・精神的な苦痛を与え、相手を不快にさせたり不利益を与えたりする行為。人間としての尊厳を侵害する行為。地位などの優位性をもとに精神的・身体的苦痛を与えるパワーハラスメント（パワハラ）、性的言動によるセクシュアルハラスメント（セクハラ）、モラルに反する精神的な嫌がらせをさすモラルハラスメント（モラハラ）などがある。

パラダイム ある時代に支配的なものの見方。知の枠組み。アメリカの哲学者トマス・クーンが『科学革命の構造』

でこの語を用いてから学術的概念として普及した。自然科学の歴史は連続的な進歩ではなく、一定期間ある**パラダイム**に基づいて**科学**が発展し、その**科学**が行きつまり**パラダイム**シフトが起ること、断続的に進んだとする。

パラダイムシフト

パラダイムの変換。
天動説から地動説への移行、ニュートン力学から量子力学への移行など。

↓パラダイム

パラドックス

↓逆説(ハラドックス)

ハレ 儀礼や祭、年中行事などの非日常的なこと。

対ケ 日常のこと。普段の生活。

反証可能性

実験や観察によって、批判あるいは否定することができること。
イギリスの哲学者ポパーは、このような反証が可能なものが**科学**理論であるとし、**反証可能性を科学**と非科学とを分類する基準とした。

↓科学

ヒエラルキー ピラミッド型に序列化された階層構造。似た意味を持つ語に、インド社会で**歴史的**に形成された流動性のない身分制度に由来する「カースト」がある。ここから、学校空間における生徒間の身分制度的な階層を「スクールカースト」ともいう。

ビッグデータ 一般的なソフトウェアで扱うことが困難なほど膨大で複雑なデータ。経済、医療、防犯、交通などさまざまな分野で活用が進められている。

比喩 たとえ。「雪のように白い」など、たとえであることを明示する形式を「直喩(明喩)」といい、明示しない形式を「隠喩(暗喩・メタファー)」と区別。

関連 隠喩(メタファー) 「ようだ」「ごとし」などの語を使わず、**比喩**であることを明示しない形式の**比喩**。暗喩。「人生は旅だ」など。

ヒューマニズム

①ルネサンス期の「人文主義」。古典教養の中に**人間の理想**像を求めるもの。②近代に入って、**神**中心の世界観から**人間**中心の世界観に移行した「**人間中心主義**」。③人道主義・博愛主義。英語の原義にはない用法。

標準語

公用文や教育、放送などで用いる**規範的な言語**。明治政府が東京の山の手地区で使われていた**言語**を基に作った。

↓共通語

表象

イメージ。心に浮かぶ対象の像。
象徴・心象。記号・象徴を用いて経験を再現させる心的機能をさす場合もある。

平等

偏りや差別が無く、あらゆる人が皆等しいこと。一口に**平等**と言っても、何を等しくするか、どのように等しくするかによって、さまざまな種類の**平等**がありうる。代表的な区別の一つとして、財産などの最終的な分配結果を均等にする「**結果の平等**」と、財産などを得る機会を全員に等しく与える「**機会の平等**」がある。

↓フェア(公正)

風土

一般的に、その土地の気候・気象・地形・地質・景観などの総称。

↓環境

フェア(公正)

人やものの扱いに偏りがないこと。

↓平等

フェイクニュース

マスメディアやSNSなどの媒体で報道される、事実と異なる

なる情報。またはそのような報道そのもの。

対 特殊 普通と異なっていること。

フェティシズム 元は呪物崇拜をさす語であるが、現代では特定のものに対する極度な愛着を表す語として用いられることが多い。「フェチ」と略することがある。

フェミニズム 性差別を廃止し、抑えられていた女性の権利を拡張しようとする思想。ジェンダーなどの視点から家父長制的な前提の問い直しが求められる。

↓ジェンダー

不可逆性 元に戻れないこと。「不可能」はできない、という意味。

不確実性 その事象が確実に起こるかどうかが判然としないことをさす概念。「リスク」と同義に用いられる場合があるが、厳密には、「リスク」は発生する確率がある程度わかっている場合、「不確実性」は発生する確率がわからない場合という違いがある。

↓リスク

複雑系 数多くの要素で構成され、それぞれが複雑に絡み合った系またはシステム。脳・生命現象・生態系・気象現象・人間社会などがあげられる。個々の要素の振る舞いが、系全体に大きな影響を及ぼす一方で、その中にも一定の秩序が形成されるといった特性を持つ。

↓カオス〈混沌・渾沌〉

物質 物。物心二元論では、理性を持たず、空間に位置を占めるだけの存在。

物心二元論 精神と物質を別個の存在と捉え、世界は精神と物質という二つの実体から成り立っているとするデカルトの考え方。心身二元論。

普遍 すべてにあてはまること。

プラットフォーム 官公庁の施策における「環境」「基盤」や、ソフトウェアやシステムにおける「動作環境」をさす。元は「周辺よりも高い水平で平らな場所」を広く表す語。

プロパガンダ 個人や集団を、特定の思想、世論、行動へ意図的に誘導する行為。政治宣伝。宣伝や広告は総じてプロパガンダであると言える。

文化 学問・芸術・宗教・道徳など、人間の精神的活動によって生み出され、人間生活を高めてゆくうえの新しい価値を生み出してゆくもの。生の営み。「文明」と同義に用いられる場合もあるが、「文化」は精神的なものに対して使い、「文明」は物質的に発達した社会の状態をいうという違いがある。

↓文化相対主義

文化相対主義 文化には優劣はなく対等であるとして、文化の多様性を認めて異文化を尊重する姿勢。

↓文化

分析 ある物事をいくつかの要素に分けることで、それらを成立させている成分や性質、構造などを明らかにすること。

分節 混沌とした世界を区切って秩序あるものとして認識すること。その区切り。

文明 人間の知恵が進んで、物心両面で生活が豊かになった状態。あるいは、精神文化と対比して、生活や秩序を支える物質文化をさす語。

↓文化

ヘイトクライム 人種、民族、宗教など特定の属性を持つ個人や集団に対する、偏見や憎悪によって引き起こされる。

る嫌がらせ、脅迫、暴行等の犯罪行為。

な様子。

弁証法 対立する二つの事項を統一、統合して、高い次元の結論に至る思考方法。指定〈**テーゼ**〉↓反指定〈**アンチテーゼ**〉↓総合〈**シンテーゼ**〉の三段階で説明するヘーゲルの**弁証法**をさすのが一般的。

関連 **テーゼ** 指定。命題。事実を肯定したり、その内容を明記したりすること。

関連 **アンチテーゼ** ある命題に対しての否定的主張。反指定。

関連 **シンテーゼ** 相互に矛盾する概念を統合すること。

関連 **アウフヘーベン** 〈**止揚**〉 矛盾や対立をより高い次元で一つの結論に統一すること。**弁証法**により望ましい結論に至ること。

方言 共通語とは異なり、特定の地域で使われている言語。

↓ **共通語**

封建制度 君主が自身に忠誠を誓って主従関係を結ぶ領主や家臣などに土地を領有させ、その土地に住む人民を統治させる**社会制度**。あるいは領主が農民に対して**絶対的な支配**関係を敷いている制度など。さまざまな国・時代の制度が「**封建制度**」と呼ばれるが、その内容は必ずしも一様ではなく、見方によっても「**封建制度**」の範囲は異なってくる。日本史においては鎌倉時代から江戸時代までの武家支配時代を封建時代といふことが多い。「封建的」はこうした**社会**における典型的な価値観を表す語で、専制的、因習的なさま、上下関係を重んじて**自由**などを軽視するさまをさすという。

ポジティブ 物事に対して積極的な様子。

対 **ネガティブ** 物事に対して消極的

ポストコロニアリズム 植民地支配の後も続く影響、差別的な状況を明らかにしようとする立場のこと。ポストコロニアルは「植民地以後」という意味。「ポストコロニアル理論」とも言う。

旧植民地は独立後も旧宗主国の影響下で、種々の問題を抱えてきた。植民地時代の対立構造による内戦、植民地以前の生活の復興を旨とする人々と**近代的**な生活を旨とする人々との対立、旧宗主国の**経済的支配**の継続や、**経済的支援**の停止による貧困などである。こうした状況に対して、人類学、歴史学、政治学、哲学、社会学などさまざまな分野から批判的な分析が行われている。

↓ **オリエンタリズム**

ポストモダン 「ポスト」は次、後という意味。もとは、機能主義と合理主義に基づく近代建築〈モダニズム〉を脱しようとする新たな建築方式をさす。そこから派生して、**近代的な社会・制度・思想**等を批判し、消費社会や情報社会と呼ばれる現代に対応した知のあり方を模索する**思想的・文化的な傾向**をさすようになった。リオタールは、**近代**には**社会**や**自由**は発展・拡大していくといった「**大きな物語**」が信じられていたが、現代では情報化が進み、価値観が多様化したため、一方的な右肩上がりの「**大きな物語**」は終焉したとした。また、ドウルーズ、デリダ、フーコーなどの活動した「**ポスト構造主義**」のことを「**ポストモダン**」ということもある。

↓ **近代** 〈**モダン**〉

↓ **構造主義**

ポピュリズム 大衆の利益・権利・願望を代弁し、大衆の支持を得ようとする政治姿勢。庶民的感情や常識によってエリートの腐敗や特権を是正する方向に向かう可能性がある一方、大衆の欲

求不満や不安をおおって支持を取りつ
けると、民主政治が衆愚政治化し、庶
民のエネルギーが集団的熱狂に向かう
可能性がある。

↓ **大衆**

本質主義 個別の事物には変化しない本
質が必ずあり、それによって内実を規
定されていると考えること。

対 **構築主義** ある事柄を、**社会的に**
作られたものと考え変更可能だと見な
す立場。これに対して、ある事柄に対
して、変更不可能のものだと見なす立
場を**本質主義**という。たとえば「男女
差」について、「**社会的に構築された**
もの」と考えるのは**構築主義**、「生得
的で変更できないもの」と考えるのは
本質主義にあたる。

ま

マイノリティー 少数派。人種や宗教な
どの面で**社会**の少数派に属し、弱い立
場にいる存在。

対 **マジョリティー** 多数派。声高に
自分の政治的意見を唱えない一般**大衆**
を「サイレントマジョリティー（物言
わぬ大衆）」という。

↓ **性的少数者**

マクロ〈**巨視的**〉 ①大きい。長い。②
見方が大きくて全体的であること。マ
クロスコピック（巨視的）の略。

対 **ミクロ**〈**微視的**〉 ①ごく小さい
こと。微小。②全体ではなく、狭い範
囲で細かく見ること。ミクロスコピッ
ク（微視的）の略。

マジョリティー 多数派。声高に自分の
政治的意見を唱えない一般**大衆**を「サ
イレントマジョリティー（物言わぬ大
衆）」という。

対 **マイノリティー** 少数派。人種や
宗教などの面で**社会**の少数派に属し、
弱い立場にいる存在。

マスメディア 不特定多数の人々に**情報**
を伝える**メディア**。新聞・テレビなど
が代表的なもの。

見えざる手 市場において、各個人の利
己的な行動が結果的には**社会**全体の利
益につながることをたとえ。

ミクロ〈**微視的**〉 ①ごく小さいこと。
微小。②全体ではなく、狭い範囲で細
かく見ること。ミクロスコピック（微
視的）の略。

対 **マクロ**〈**巨視的**〉 ①大きい。長
い。②見方が大きくて全体的であるこ
と。マクロスコピック（巨視的）の
略。

民主主義 〈**デモクラシー**〉 人民が**権力**
を握り、それを自ら行使する政治形

態。**デモクラシー**という言葉の起源は古代ギリシアの時代に遡るが、**民主主義**が現代的な政治体制として確立するのは十七、十八世紀の市民革命以降のことである。君主制や貴族制、**全体主義**などと対比される。非民主主義的な政体を「**権威主義**（**権威主義政体**）」と総称することもある。

民族 言語などの文化を共有する集団。

↓**ナショナリズム**

無意識 ①理由などをはっきり意識することなく行動するさま。②**自我**では把握できないが日常の行動や**精神**に影響を与えている心の深層のこと。オー**ストリア**の精神医ジークムント・フロイトが提唱し、**シュルレアリスム**などに影響を与えた。

無機的 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

対有機的 有機体、あるいは生命体のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

無常 仏教用語。この世にあるものは常に少しずつ変化し続けており、そのままではいられないという思想。

命題 ある判断を言葉で表したものの。真か偽かが明確に区別できる言明。

メタ 「あとに」という意味の古代ギリシャ語。転じて「超越した」、「高次の」という意味の接頭辞。あるものを外側に立って見る事を意味する。たとえば、あるデータがどのような性質を持つかを示すデータを「**メタデータ**」、自身の認知がどのようなものであるかを認知することを「**メタ認知**」という。

メタファー

↓**隠喩**（**メタファー**）

メディア ①**コミュニケーション**の際、媒介となるもの。②**情報の記録・伝達・保管**などに用いられる物や装置。**媒体**。

↓**コミュニケーション**

メディア・リテラシー 情報を理解し、活用する力。その情報がどんな意図で作られ、送り出されているかを自分で判断する能力。

↓**コミュニケーション**

メンズリブ 男性が自身の**性規範**を批判的にとらえ、従来の男性観を問い直し、見直そうとする思想や運動。

↓**ウーマンリブ**

↓**フェミニズム**

モード 形式。様式。方法。スタイル。流行。

モダン

↓**近代**（**モダン**）

モチーフ 芸術作品で、表現の動機・きっかけとなる思想や題材。

モノのインターネット（IoT**）**

Internet of Things。さまざまなモノをインターネットに接続し、相互に情報交換させたり、制御したりする仕組みをいう。外出先から遠隔操作できる家電製品や車の自動運転、リアルタイムで健康状態をモニタリングする医療機器などに活用される**技術**。

模倣 まねること。創造の対義語として否定的に用いられることもあるが、**人間が言語や生き方を模倣**によって習得していることなど、肯定的な側面もあることに注意が必要である。

モラトリアム 原義は一時停止や猶予のこと。社会心理学では、学生などが社会に出て一人前の人間となるのを猶予されている状態をさす。日本語では

「義務・責任を先延ばしにしている状態」をさして否定的に用いられる場合もある。

モラル

↓ 倫理へモラルへ

や

唯心論 物質の実在を認めず、万物の本質は心やそのはたらきにあるとする考え方。唯物論と対立する。

対 唯物論 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

唯物論 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

対 唯心論 物質の実在を認めず、万物の本質は心やそのはたらきにあるとする考え方。唯物論と対立する。

有機的 有機体、あるいは生命体のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

対 無機的 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

幽玄 物事の趣が深くはかりしれないこと。仏教や老荘思想など、中国思想の分野で用いられる漢語であったが、日本では中世ごろから、和歌を批評する用語として用いられるようになった。

ら

リアリズム

①現実の事態を重視し、理想的な考え方を排斥する立場。現実主義。②現実を客観的に捉えようとする芸術的な立場。写実主義。

関連

シュルレアリズム 超現実主義

義

不合理で非現実的な世界を描くことで人間の解放を目ざした芸術運動。

↓ロマン主義

リスク

悪い事象が起こる可能性。リスクの大小は「悪い事象」の重大性と、それが起こる可能性の兼ね合いから決まる。

↓不確実性

リスク社会

富の生産と分配ではなく、リスクの生産と分配が大きな問題となった社会をさす概念。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックによって提唱された。現代ではリスクはグローバルに作られ、被害も広範囲に及ぶ場合がある。また、一般人の感覚や知識ではリスクを理解できない可能性が高まり、対処が難しくなっている。

理性

合理的に判断し、行動する能力。知。個人は理性によって統御されるべきとするのが近代の考え方。

対

感性 外界の刺激を五感で受け止める能力。

リソース

資源。物質的なものに限らず、資源となりうる要素を抽象的に表す用語として使われる。人、施設設備、資金、ネットワーク、データの記録領域など。

リテラシー

読解し記述する力。転じて「適切に理解し、記述、表現すること。活用能力。」といった意味で使われる。

↓メディア・リテラシー

リノベーション

既存の建物に大規模な改修を行い、用途などを変更して付加価値を与えること。広く、刷新、革新などの意味で用いられることもある。

リバタリアニズム

個人的な自由と経済的な自由の双方を重視する立場。経済的な自由を重視するネオリベラリズムと似ているが、リバタリアニズムでは個人的な自由をも重んじる。他者の身体や正当に所有された物質的、私的財産を侵害しない限り、すべての行動は自由であるとする。リバリズムは、貧困者や弱者の救済として国などが富の再分配を行うことを肯定するが、リバタリアニズムはこれらを認めない。このような立場をとる人を「リバタリアン」という。

↓リバリズム

リベラリズム

自己と他者双方の自由を尊重する社会的公正を指向する立場。政府による制限や介入をなくすことを求めるリバタリアニズム、ネオリベラリズムとは異なり、政府などによる積極的な介入も必要であると主張する。

関連

ネオリベラリズム 新自由主義

義

個人の自由や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきだと主張する経済学上の思想。

↓リバタリアニズム

両義的

相反する二つの意味を同時に持ち、どちらにも取ることが可能なこと。

↓一義的

倫理〈モラル〉

善悪を判断するための規範。人として守るべき道。

ルネサンス

ギリシア、ローマの文化を復興しようとする文化運動。元は「再生」「復活」などを意味するフランス語。十四世紀にイタリアで始まり、やがて西欧各国に広まった。また、これ

らの時代（十四世紀～十六世紀）をさすこともある。人間らしさや個性を尊重し、人々を宗教的束縛から解き放った運動とも捉えられる。

ロゴス 言葉、論理、理性などを表すギリシア語。

↓**バトス**

冷戦 第二次世界大戦後の世界を二分したアメリカ合衆国を盟主とする**資本主義・自由主義陣営**（西側諸国）と、ソビエト連邦を盟主とする**共産主義・社会主義陣営**（東側諸国）との対立構造をいう。直接的な武力対決ではなかったことから「冷たい戦争」と呼ばれた。米ソ冷戦。東西**冷戦**。一九八九年十二月に、地中海のマルタ島で、ソ連大統領ミハイル・ゴルバチョフと米国の大統領ジョージ・ブッシュが会談し、**冷戦**の終結を宣言した。ここから転じて、外面的な実力行使を伴わない対立が続くことを、**冷戦**状態と表現する場合がある。

歴史 人間社会の変遷とその記録のこと。ある時点までに起こった出来事すべてを記録することは現実的に不可能なため、**歴史**はその時点の価値観から取捨選択され、意味づけられたものになる。

レジリエンス 心理学で、変化に対処する能力。「抵抗力」「復元力」「耐久力」「再起力」などとも訳される。物理的な「弾性」「弾力性」の意味もある。

レトリック 文章表現の効果を高める技術。比喩、対句、倒置法など。修辭法。実質を伴わない表現上だけの言葉や表現の巧みな言葉などに対して、否定的な意味で使われることがある。

ローカル 一定の地方、地域に限られているさま。**文化**、風習、**環境**などに対していう。「**グローバル**」と対立する概念として用いられることもある。

ロボット 人間の代わりに何らかの作業を行う機械装置や人間を模して作られた機械、あるいは、ある作業を自動的に行う機械のこと。チェコスロバキアの作家カレル・チャペックの戯曲で用いられた造語。チェコ語で「労働」を意味する robot に由来する。**ロボット**の定義は様ではなく、たとえばロボットアームのように人が遠隔操作する機械や、着用した人の動きをサポートするパワードスーツなども**ロボット**に含む場合がある。ペットロボットは人間を模しておらず、人間の代わりに作業もしないが、**ロボット**に含まれる。一方で、エスカレーターや工場の重機などは、人間の代わりに作業を行うものであるが、**ロボット**には含まれない。人間の**身体**の一部を人工物や装置で置き換えたり埋め込んだ状態も「サイボーグ」として**ロボット**とは区別される。

ロマン主義 近代合理主義に対して人間の個性と感情を重視する芸術上の立場。十八世紀から十九世紀のヨーロッパで、**啓蒙思想**に対抗して起こった。**対 啓蒙思想** 近代の合理的精神に基づいて、迷信・偏見・宗教的権威などを不合理なものとして取り払い、**理性**の自立を促す思想。英語の「the Enlightenment」を訳しめ、「エーロマンパ」の多くの言語で「光で照らすこと」という意味の語があてられている。啓蒙主義。

や
ら
わ

わ

わび 日本的な美意識の一つ。質素な中に心の充足を見いだす精神。飾りを捨てた質素でひっそりとした趣。

関連 さび 「わび」同様、日本のな美意識の一つ。古びたものを感じる静かで落ち着いた趣。